

環境マネジメント

地球環境保全を最優先と捉え、事業活動にともなう環境負荷低減に取り組んでいます。

環境理念

当社は、地球環境及び地域環境の保全を最優先課題と捉え、緑あふれる地球を未来に残す責任ある一員として、「地球は我等の共通の広場なり」をスローガンに、環境に配慮した事業活動と地球環境保全の両立を目指します。

環境方針

- 1 あらゆる事業活動から生ずる環境側面への影響評価を行い、自主的な改善計画を策定し、積極的な環境保全に努めます。
- 2 関連する環境法規制、その他の要求事項を遵守し、自主管理基準を設定し、環境汚染の未然防止に努めます。
- 3 環境目的・目標・実施計画を設定し、継続的な改善を行うことにより環境への負荷を軽減し、環境と調和する事業活動を目指します。また、それらは必要に応じて見直します。
- 4 環境教育や啓発活動を実施し、全従業員及び当社で働く全ての人への環境方針の理解と情報の周知をします。
- 5 環境情報は社外へ開示いたします。また地域や社会との交流を図り、環境保全活動に積極的に協力します。

ジーテクトグループ環境マネジメント体制

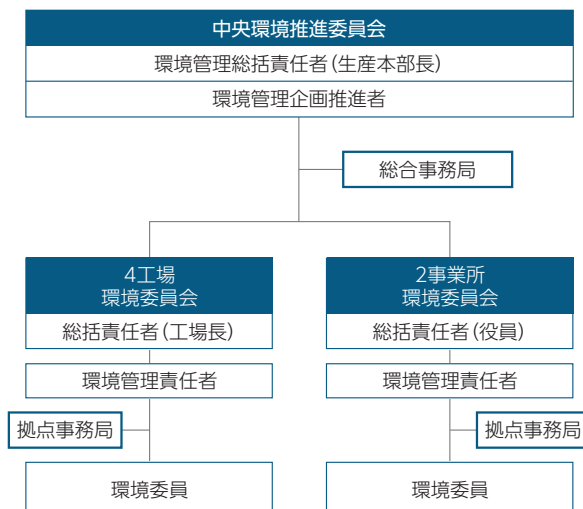
ジーテクトでは、地球環境問題を企業が取り組む最優先課題として考え、1998年からISO14001環境マネジメントシステム(EMS)の認証取得を進めて参りました。各工場はISO14001 EMSの環境委員会を単位として、各工場長が環境管理総括責任者を兼任し、環境のコンプライアンスや改善活動を継続的に進めています。これに本社とC&C栃木の2事業所を加え、これらの上位組織として中央環境推進委員会を設置し、全社的な地球環境改

善活動に関する事項を統括しています。

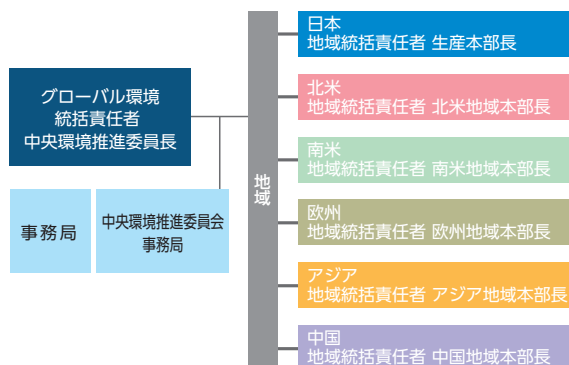
2018年度は、本社及びC&C栃木、GTL(ジーテクト東京ラボ)の事業所の拡大審査を実施し、国内は100%(事業所件数ベース)取得となりました。

また、2017年4月より「グローバルCSR会議」を定期開催し、各海外地域本部長を責任者として、グローバル全体における環境マネジメントの強化と情報共有に努めています。

●ジーテクト国内環境管理体制



●グローバル環境管理体制



ISO14001:2015 認証取得割合 (事業所件数ベース)

国内100% **海外89%**



G-TEKT環境ロードマップ

環境目的を定め、目標に向けた環境活動計画に基づき、継続的改善活動を推進しています。

2020年Vision G4-20

Green (環境・安全・社会貢献)
環境/安全に配慮した事業展開

全社重点目標

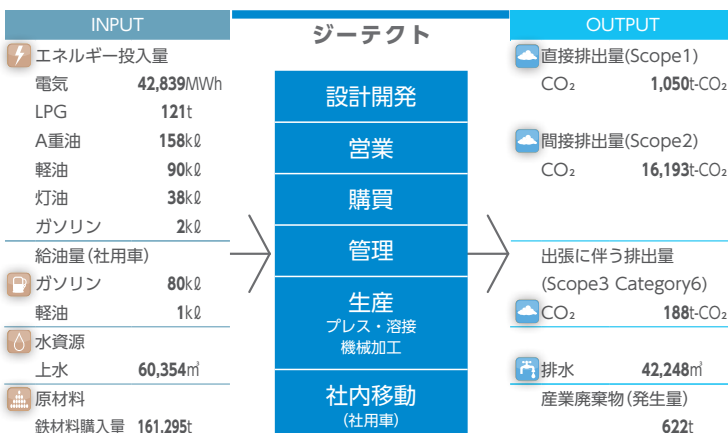
環境負荷と環境リスクの低減

各事業所の環境目的

1. 水質汚濁の防止
2. 工場騒音・振動の防止
3. エネルギー消費量の削減
4. 廃棄物の低減(3R)
5. 地域社会貢献

領域	内容	計画/実績	第三次中期目標と実績		
			2017年度	2018年度	2019年度
生産	温室効果ガス(GHG)排出量 売上高原単位の低減	目標	9%改善 (2013年度比)	9%改善 (2013年度比)	9%改善 (2013年度比)
		実績	2.3%改善	8.1%改善	
		評価	×	○	
	水資源使用量の低減	目標	目標設定に向けた準備	2017年度の原単位維持	17年度の実績維持
		実績	過去実績調査済	10%改善	
		評価	○	◎	
環境 マネジメント	騒音振動、水質汚濁、 土壌汚染、大気汚染公害、 廃棄物処理等の環境問題を 発生させない	目標	環境法令遵守 社外流出、苦情件数ゼロ	継続	継続
		実績	環境問題ゼロ	環境問題ゼロ	
		評価	◎	◎	
	ISO14001 EMS2015 認証取得 (本社、東京ラボ、C&C栃木)	目標	準備	拡大審査にて認証取得	維持
		実績	文書見直し	3拠点認証取得済み	
		評価	◎	◎	
企業活動	地域貢献活動の定着 (生物多様性への対応)	目標	各工場1件以上活動	継続	継続
		実績	森林づくり活動、他の実施	森林づくり活動、他の実施	
		評価	◎	◎	
	社会への発信	目標	CSR報告書2017の発行	CSR報告書2018の発行	CSR報告書2019の発行
		実績	発行済み	発行済み	
		評価	◎	◎	

日本国内 マテリアルフロー (※2018年度実績値)



環境会計

	2018年度	
	投資額	費用額
事業エリア内コスト	85.3	33.5
(公害防止コスト)	—	2.1
(地球環境保全コスト)	85.3	2.7
(資源循環コスト)	—	28.5
上・下流コスト	1.1	61.6
管理活動コスト	—	64.6
研究開発コスト	—	36.9
社会活動コスト	—	3.9
環境損傷対応コスト	—	—
合計	86.4	200.7

※環境省「環境会計ガイドライン(2018年版)」を参考とし、国内事業所を対象範囲として集計しています。

グローバルにおける環境負荷データ

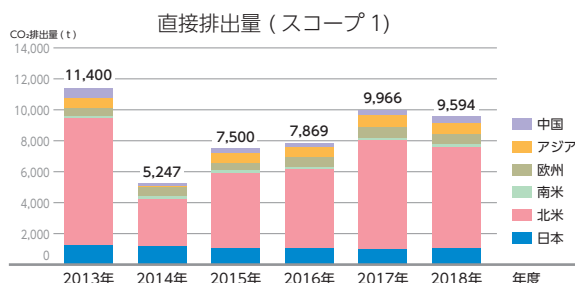
ジーテクトグループは、企業活動の全ての領域において環境負荷を低減するため、各事業所でエネルギー消費量の削減や廃棄物の低減などの取り組みを展開しています。

2018年度は、日本・欧州・中国の売上が好調により、生産に伴うエネルギー消費量が増加し、電力使用によるCO₂排出量(スコープ2)は前年比で6%の増加となりました。今後は再生可能エネルギーの活用など、引き続き環境改善の取り組みを推進し、CO₂排出量の低減へと努めてまいります。

対象範囲

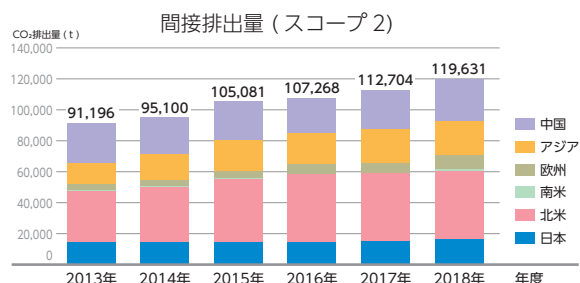
「環境負荷データ」では、ジーテクト及び海外連結子会社と持分法適用関連会社(50%で算出)の合わせて20社の事業活動におけるデータを掲載します。

温室効果ガス排出量



スコープ1:

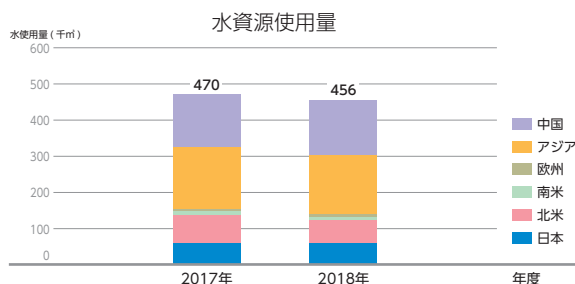
企業活動による温室効果ガスの直接排出(A重油、軽油、灯油、ガソリン、LPG、天然ガスの燃焼によるエネルギー利用。フォークリフトに使用するLPG、ガソリン、軽油燃料消費による排出を含む)。



スコープ2:

企業活動による温室効果ガスの間接排出(電力エネルギーの使用)。日本は地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく排出係数(0.378t-CO₂/MWh)を、日本以外はIEA, Emissions from Fuel Combustionの2008年排出係数を利用。

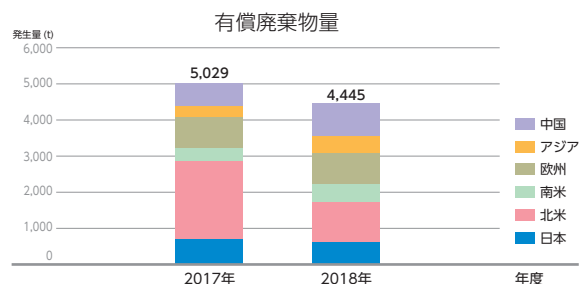
水資源使用量



算定方法:

使用量 = Σ (水道施設からの購入量 + 地下水取水量)

廃棄物発生量

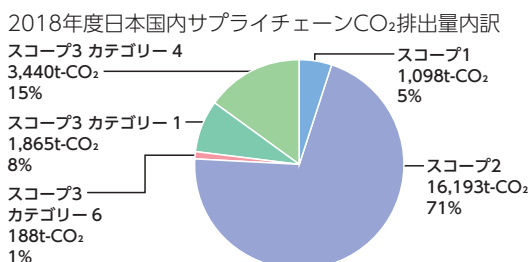


算定方法:

発生量 = Σ (産業廃棄物発生量 + 事業系一般廃棄物発生量)
但し、日本以外は有償処理委託をしている廃棄物発生量。

日本国内におけるサプライチェーン環境負荷データ

ジーテクトは、サプライチェーンでの環境負荷を把握することにより、取引先と共にサプライチェーン全体でのCO₂排出量削減に取り組んでいます。



スコープ1:	当社の直接排出量
スコープ2:	当社の間接排出量(電力使用分)
スコープ3 カテゴリー6:	当社の出張に伴う排出量(社用車使用分を把握)
スコープ3 カテゴリー1:	当社が購入した製品が製造されるまでの活動に伴う排出量(主要取引先12社分の実績値+推計値)
スコープ3 カテゴリー4:	当社が荷主となる輸送に伴う排出量(得意先までのトラック輸送分を把握)